令和７年度 第１回三木市社会教育委員会　議事録　R7.7.28　午前 10 時 00 分～

１．開会　　進行：藤原生涯学習課係長

２．あいさつ　　大北教育長

３．委嘱状交付　　机上交付

４．委員自己紹介　　各委員

５．事務局自己紹介　　各課職員

６．報告

三木市教育の基本方針について　　大西生涯学習課長より説明

７．議事

(1) 令和７年度社会教育施策の推進について　　各課長等より趣旨説明

【質疑応答】

（池田委員長）

・では、「令和７年度社会教育施策の推進について」、ご質問、ご意見がある方は、発言をお願いする。

（小舟委員）

・公民館活動について、お願いがある。社会教育の推進においては、公民館は大事な役割を果たしている。中央公民館等の複合化については、人口減少社会において重要であるし、公民館におけるデジタル化の推進も重要である。しかしながら、エレベーターがない公民館がある。市からは、大規模改修等の時期に合わせて、計画的にエレベーターを設置していくとの回答を得ているところだが、バリアフリーなどの観点から、早急に設置する必要がある。

（大西生涯学習課長）

・今年度の別所地区における市政懇談会においても、同様の意見が寄せられていると伺っている。市としては、今年度実施する緑が丘町公民館の大規模改修に引き続き、順次、計画的に公民館の大規模改修工事を行う予定である。ただ、このようなご意見があったため、市としても再検討する場を設け、方向性を決定していきたい。

（西田委員）

・社会教育について、教育委員会をはじめとして様々な事業に取り組んでいるなと感心している。ただ、老人クラブとしても、社会教育の範疇ではないかもしれないが、学校で芋掘りや花植え活動やなどをしている団体であり、社会教育にも貢献しているため、資料の中にも老人クラブ

の活動について明記してほしい。

（藤原生涯学習課係長）

・本日の資料にはないが、老人クラブの方々には、地域と学校の連携・協働体制推進事業という中で、学校とともに花壇の植栽活動などをしていただいている。また、令和５年度から導入を進めているコミュニティ・スクール事業においても、老人クラブの方々のご協力を得ながら、活動を行っているところである。今後、社会教育委員会の資料を作成するにあたり、老人クラブのことについても明記するように改善したい。

（國井委員）

・毎朝、子どもたちの登校の見守りをしている際に、小学１年生の子どもを見ていると、ランドセルや手荷物が多く、困っているように思う。学校の先生が言うには、タブレットを毎日持ち帰っているためではないかと聞いたが、どうにかならないか。

（小池教育センター所長）

・以前は、授業で使用する頻度の少ない教科書等についても、自宅に持ち帰るように指導していたが、昨今は、子どもたちの負担軽減を図るため、副教材等については学校に置いて帰ってもいいように変わってきている。また、タブレットについては、このたびアイパッドに更新したことにより、若干ではあるが軽くなっている。また、本体とキーボードを分離して持ち帰ることもできるため、その分についても軽減されると思っている。これからのネット社会を生きる子どもたちには、そのアイパッドを利用し、学校だけでなくご自宅でも何か調べたいことがあるときには、率先して利用してほしいという思いもある。

(2)持続可能な人づくり・地域づくりについて　　藤原生涯学習課係長より説明

（中西委員）

・地域づくりという点で、市内には多くの外国人の方が生活をしている。先日、自由が丘公民館の日本語教室に参加した際に、外国人の方々と話をする機会があった。外国人の方は、日本語を学び、日本人と交流したいと思っているようだが、言葉の壁や文化の違いがあり、なかなか友人ができずに、自宅に閉じこもっているようである。

・地域でも自由に子どもたちを遊ばせる場所も少なく、日本人から非難を受けることも多いようである。三木市では、国際交流協会などがイベントなどを実施しているが、今後、外国人住民が増えていく中で、外国人の方々が住みやすい地域づくりが必要だと思う。

（藤田人権推進課長）

・相手のことを知らない、知ろうとせずに傷つけてしまうことが差別や偏見だと思う。まずは相手のことを知ろうとすることから始め、繋がっていくことが大切ではないかと思う。

・人権推進課においても、啓発事業に１人でも多くの方が参加していただけるよう取り組んでいきたい。

（西田委員）

・社会教育を推進するにあたり、人づくり・地域づくりは重要であると認識しているが、並大抵のことでは前に進めることができないほど難しいことである。

・自治会活動においても、２０年前と比べると大きく変わってきており、対面の会議も少なくなってきている。特にコロナ禍以降、本当に変わってしまった。
・若者も高齢者も、お互いに協力し合える地域にしていきたい。
（池田委員長）
・社会教育委員の皆さまにおいては、西田委員と同様の想いを持たれていることと思う。
・高齢者だけでなく、若年層にもまちづくりに参加してほしいと考える。そのような仕掛けづくりが必要ではないか。
（小舟委員）
・自治会の役員を決める際にも、対象者は高齢化しており、若い世代は少なくなってきている。さらには、高齢者の方も６０歳で定年退職をするような時代ではなくなってきている。
・子ども会についても、市内で成り立たない自治会もあるようである。
・ＩＴ化が進むことは良いことだが、対面の会議や話ができる機会も必要ではないかと思う。私の地区においても、ふれあいサロン活動をしている団体があり、つながりづくりに寄与していると思う。
・部活動の地域展開について、子どもたちの受け皿をさらに充実していただき、社会教育としての活動を進めてほしい。
（國井委員）
・高齢者大学の卒業生で、地域活動をされているような方はいるのか。
（藤原生涯学習課係長）
・高齢者大学では、以前、募集要項に、卒業生は地域に戻り活動をしてほしい、といった内容を記載していたが、それが壁となり入学者数が減ってしまったことがあった。そのため、現在ではそのようなことは募集要項に書いていないが、社会教育を所管している生涯学習課としては、少なからず地域で活躍していただきたいという想いはある。そのため、高齢者大学のカリキュラムに組み込んでいければと考えている。
（西田委員）
・青山地区には高齢者大学を卒業された方が多く、地区役員をされている方も多い状況である。
（佐藤委員）
・持続可能性という言葉がよく使われるようになってから、文部科学省などで議論されていることについては、全くその通りである。ただし、どうすればよいのか、といった方法や手段については、地域性もあるが、それぞれの地域で異なってくるため、大変難しい課題である。
・時代の変化に伴い、社会的関心が低くなっていることも原因の一つではないかと思う。自分以外の誰かのために何かをしようと思わなくなっているのではないか。
・大学では、地域との関わりなどを主体としたフィールドワークなども実施しているが、学生はきっかけさえ与えてやれば、それなりの成果ややりがいを感じているようである。そのような機会の創出をしていけば、人づくりや地域づくりの一助になるのではないかと思う。
（池田委員長）
・以上で議事については終了する。それでは、進行を事務局に返す。

８．その他

東・北播磨地区、県・近畿・全国社会教育委員協議会関係予定

藤原生涯学習課係長より説明

９．閉会

あいさつ　　岸本副委員長

～午前 11 時 35 分終了～

記録者　生涯学習課係長　藤原正和